

# 学園

平成13年 5月20日発行

財団法人

中国四国酪農大学校

電話 (0867) 66-3651

FAX (0867) 66-3652

E-mail [jerko@tw.bekkoame.ne.jp](mailto:jerko@tw.bekkoame.ne.jp)

<http://cali.lin.go.jp/japan/k33/rakudai/index.htm>

# だより



# 巻頭のこトば

校長 古好秀男

財団法人中国四国酪農大  
学校は農林水産省の認可を  
受けて、創立以来三十七年  
間を迎えておりますが、そ  
の間、農林水産省、構成県、  
川上村、八束村、JRA、  
地全協、県酪連を始め多く  
の関係団体の温かい御指導、  
御支援を賜りまして心から  
厚くお礼を申し上げます。

今年は積み重ねられる歴  
史の流れの中で二十一世紀  
の節目を迎え、今後、人間  
社会の生活文化がどの様に  
激変するかは、全く想像も  
つきませんが、人間社会の  
生活文化がどんなに変わろ  
うと関係なく毎年訪れる四  
季の大自然の美しさは、私  
達の心を浮き浮きと踊らせ  
る躍動感と勇気を与えてく

れています。「地球は活動し  
ている」誰でも普段は忙し  
さにまぎれて考えてみたこ  
ともないと思いますが、地  
殻がゆっくりと大陸プレ  
ートの下に潜り込んで移動し  
ている限り、桁違いに長い  
時間を掛けてマグマがエネ  
ルギーを溜め込んで人間  
社会が忘れかけた頃に突然  
やってくる地震のすごさは  
まるで地殻にいる生物の背  
中の上に私達が間借りをし  
て生活しているような気持  
ちがします。マグマが活動  
期に入ったのか最近、思い  
もかけない場所で大きな地  
震が多いので、大きな災害  
が起こらねばよいがと一寸  
心配です。それにしても地  
殻を根こそぎ震動させる巨

大なエネルギーは、どうす  
ることも出来ない人間の無  
力さと自然災害の恐怖を改  
めて実感せざるを得ません。  
さて、平成十二年六月二  
十日付け発行の学園だより  
で同窓生の皆さんに岡山県  
内で開催された全国共進会  
に一頭でも多くの優秀牛を  
出品するように呼びかけを  
致しましたが、お陰様で、  
酪大を含め同窓生の皆さん  
に本当によく頑張つて頂き  
それぞれの地域の激戦を勝  
ち抜いてホルスタイン十五  
頭、ジャージー十九頭の総  
計三十四頭の優秀牛を出品  
して頂き名誉賞二頭、準名  
誉賞二頭、優等賞六頭、一  
等賞十一頭、二等賞十二頭、  
ベストアダー賞三頭、ベス

トプロダクション一頭と正  
に驚異的な好成绩を納める  
ことが出来ました。中でも  
特に第二十七期生の永禮淳  
一さんが最高位の高円宮賜  
杯の第一号を獲得されたこ  
とは、酪農大関係者に  
とりましては、この上ない  
喜びと感動と夢を与えてく  
れました。この偉大な功績  
を酪農大と致しまして  
は今後の酪農実践教育の模  
範としたいと考えておりま  
す。

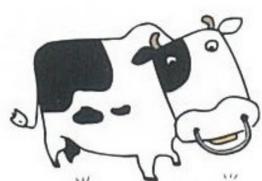
今や官民あげて機構改革  
推進の時代に入ってきたと  
思います。特に行財政改革、  
市町村の合併問題、団体会  
社の整理統廃合が実施され  
る中で更に、広域交通網、  
情報化社会の発展により社  
会構造の仕組みが歴史的に  
大きく変貌しようとしてい  
ます。

一方、酪農業界に於いて  
も戸数、頭数が減少傾向に  
あり生乳の需要と供給のバ  
ランスが崩れ、近い将来、  
生乳不足が深刻な問題とな  
ることが予想されますので、  
むしろもう一度酪農経営を  
見直すよいチャンスの到来  
かもしれません。

今こそ、酪農関係の基盤  
整備はもとより健全な酪農  
経営を推進するために自分  
の酪農経営分析を充分に行  
い、地についての将来性のあ  
る酪農経営を目指そうでは  
ありませんか。

酪農大と致しまして  
も更に教材施設の充実を図  
りたいと思っておりますの  
で、関係者の皆様の限りな  
い御指導、御支援を賜りた  
いと思います。

同窓生の皆様を始め、酪  
農大関係者の皆様、是非  
お近い内に学校の方へ一  
度お出かけ下されば幸甚で  
す。皆様のお越しをお待ち  
申し上げます。



# 教務課だより

## 第三五期生

### 卒業証書授与式

平成十三年三月二一日、  
第三五期生二五名（別表）  
が、卒業。

理事長表彰

優等賞・池田佳子

全国農業大学校協議会表彰

池田佳子

校長表彰

優等賞

池末祐介・志田原夏代

山根志保・早田卓史

精勤賞

大崎勝也・尾上正人

川上紀栄・松田志津

努力賞

河崎瞳・藤田直人

卒業論文賞

原田成志郎・三村洋平

山根志保・吉本卓弘

## 第三七期生入学式

平成十三年四月五日、第



37 期 新 入 生

三七期生二四名（別表）が  
入学。  
本年も女子学生が多く、

二十四名中十一名が女子で  
す。一方、後継者が五名と  
非常に少ない状況です。  
出身地で見るとここ数年  
多かった九州出身者がいな  
いこと、岡山県出身者が一  
〇名と多いことが特徴で  
す。

## 全国農業大学校協議会に加入

平成十二年七月より、全国  
農業大学校協議会に加入し  
ました。（財）中国四国酪  
農大学校は開校以来酪農専  
門の大学校として、よく言  
えば孤高を保ち、悪く言え  
ば孤立していたと言えるか  
もしれません。しかし、学  
生の良い刺激になればとい  
う考えからこの協議会に加  
入することとしました。

協議会の目的は、農  
業大学校等の相互の連  
携の強化等をつうじ  
て、農業及び農村生活  
を向上させるために必  
要な、農業教育の振興  
をはかる事です。現在、  
本校を含め各道府県農  
業大学校等五十二校が  
加盟しています。

酪大は、二年生が四  
〜十一月まで校外研修  
に出ていること、一年  
生も必ず牧場実習があ  
ることなどから行事に  
参加し難い面もありま

十二年度は、途中加入と  
いうこともあり、学生が参  
加したのは、広島県で開催  
された中国地区の球技大会  
（ソフトボールと卓球）と  
高知県で開催された中国四  
国プロジェクト発表会（卒  
業論文発表会）の二行事で  
した。



中四国プロジェクト発表会

# 卒業生から 在校生から

## 酪農大学校同窓会会長から

同窓会会長 筒井 一

同窓生の皆様、益々御活躍のこととお喜び申し上げます。

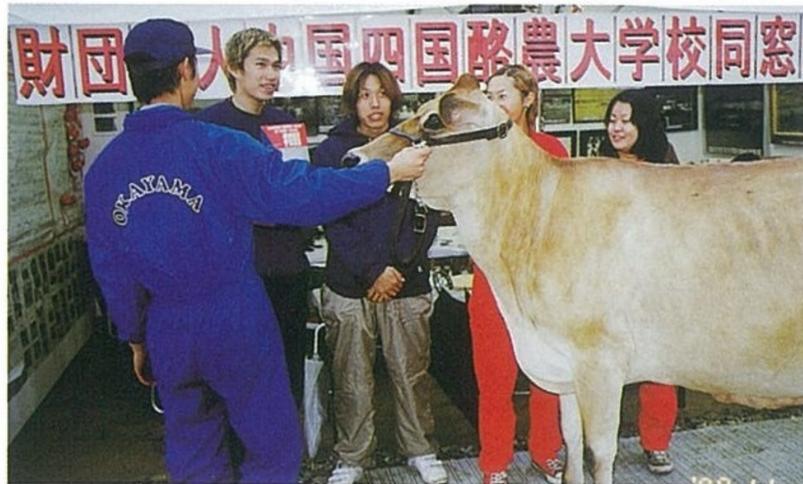
昨年八月の総会でもう一期会長を仰せつかりました。会の運営によりしく御協力下さるようお願いいたします。

全国的にも桜の便りが一週間以上早く聞かれ始め蒜山でもゴールデンウィークには、桜が散ってしまいました。しかし、気温だけは高くても肝心の牧草の生育期に雨が少なく草丈が伸びず収量減が心配されています。さて、同窓会の活動ですが、昨年八月に総会を開催し二年間の活動方針を決定しました。残念ながら、参加者が少なくやや淋しい総会となりました。今回は、事務局と検討し多

くの会員が参加できるようにしたいと思います。

昨年の特筆すべき事業は、岡山で開催された全日本ホルスタイン・ジャージー共進会会場に酪農大学校コーナーを設置したことです。校長先生の尽力によりメイン会場の入り口横の一等地にテントを開くことができました。予想以上の同窓生が来てくれました。日頃なかなか会うことができないう同級の人達が懐かしそうに語り合う姿を沢山見ることができました。また、全共記念誌を学校と協同で「共進会の足跡」として発行し酪農大学校卒業生の活躍を記録しました。大きなイベントが無いと

活動ができませんが、会員の皆様方の意見に充分耳を傾け事業を進めたいと思いますので御協力下さるようお願いいたします。



酪農大学校コーナー

にのみお願いすることとし、「学園だより」送付時においていた会費納入については平成十三年度から求めないこととしました。

なお、入会金未納の方は納入方よろしくお願いします。

### 二「学園だより」助成

学園だよりは、同窓会機関誌としての位置づけもあるとし印刷費の半分を同窓会より負担することとしました。

### 三次回総会について

平成十四年七月十五日頃開催予定です。多くの方の出席をお願いします。

## 同窓会役員名簿

- 会長 筒井 一 岡山
- 副会長 野崎 幸雄 広島
- 〃 横田 豊実 香川
- 監事 飯山 久人 岡山
- 〃 長尾 寛人 〃

## 島根県支部の状況

我が島根県支部は現在会員数九〇名ばかり、県立三

期卒業の方から財団三六期卒業生まで実に四十年にわたるとする、酪農大学校の歴史が感じられる年令構成になっています。親子あるいはご夫婦そろっての卒業生もいらつしやいます。そして、出身地といえば東は安来市から西は、益田市、鹿足郡までの実に広範囲にわたっています。したがって支部役員は学校に近い県東部から中部の卒業生での構成になっています。職業も酪農自営者から会社員、公務員、団体職員等々さまざまです。支部の活動も二年に一回の役員会がメインの状況です。東西に長い島根県。今後いかにして支部を活性化するのか私に課せられた課題です。最後になりましたが、若い卒業生が後継者としてあるいは酪農ヘルパーとして学校で学んだ事を基礎に立派に活躍をされていることを書いて、島根県支部の近況報告といたします。

平成十二年八月一日第四次同窓会総会を開催しました。議事録は各支部長へ送付しておりますが、特記事項だけお知らせします。

### 一 会費について

年会費二〇〇〇円については、大きな事業を行う時



# 第1牧場だより



厳しかった冬も終わり、緑が美しい春本番の今日この頃ですが、卒業生の皆様にはお元気で御活躍のこととお喜び申し上げます。

平成一三年度の第一牧場の陣容は、守屋主任が内部移動により第二牧場へ移り、新たに今春岡山大学を卒業

した芦田技師を迎え、田林場長、樋口助手の三人で頑張っています。

乳用牛においては、家畜改良及び先端技術の普及という見地から受精卵移植技術を積極的に活用するとともに、輸入精液の利用を行い、牛群の質も職員・学生

一同の努力により年々向上しており、一日の平均出荷乳量が一トンを越えるのも近いと思われれます。

さらに、昨年十一月二日、十一月五日に岡山県児島郡灘崎町で開催された、第一一回全



日本ホルスタイン共進会に向けて頑張りましたが、残念ながら出品候補牛二頭とも県の最終選考で涙を飲み、全共出品の夢は果たせませんでした。しかし、今春のホクラクB&Wシヨウで好成績を収め、中部地区B&Wシヨウに一頭出品する予定であります。

肥育牛においては、一二年度には二〇頭を出荷しましたが、今後は肥育部門は

買して頂くようお願いいたします。

縮小しジャージーの雄のみを肥育する予定であります。そして、その空いたスペースを利用してホルスタイン育成牛を飼養し、初妊牛販売を計画しておりますので、同窓生の皆様には是非購

入します。

牧草の状況は、十二年度は天候に恵まれトウモロコシが豊作で、サイレージはバンカーサイロ二基がほぼ満杯となり、おいしいサイレージを腹一杯食べさせています。

最後になりましたが、今年も本校でたくましく育った若者が二五名卒業し、一方で、夢に胸を膨らませた新入生が二四名入学してきました。卒業生の皆様には酪農大学の近くにお寄りの際には、本校に足を運んでくだされば幸いです。

## 飼育頭数

平成13年4月1日

区分	第一牧場	第二牧場
経産牛	44	92
育成子牛	37	70
乳用牛計	81	162
肥育牛	25	—
繁殖和牛	4	—
肉用牛計	29	—
合計	110	162

第2牧場はジャージー牛 (単位:頭)

## 第2牧場だより

酪農大学校第二牧場にも  
ようやく春が訪れ、牧草地  
の緑も徐々に濃くなり、先  
般四月二十五日に初放牧を  
行いました。当日は、テレ

ビや新聞社など報道陣が取  
材に訪れ、放牧地の入り口  
付近に陣取り牛舎からの開  
放を待ちどうしく構えてい  
ました。時間になり扉が開  
くと、待ちかねていたジャ  
ージー達が、ものすごい勢  
いで飛び出して行き、先導  
役の学生や取材陣を蹴散ら  
すような勢いで放牧地に突  
進して行き柔らかい牧草を  
感触を確かめる様に貪って  
いました。この光景を見る  
と、やはり牛は大地の中で  
生きていく「草食動物」で  
ある事が実感されました。  
翌日からは、搾乳牛に加え育  
成牛や乾乳牛を道路よりの  
草地に放つと子供連れの観  
光客が道路脇に車を止めて

写真を取ったり、牛を眺め  
るなどし、蒜山の観光風景  
に牧場が一役かっているの  
がよくわかりました。

さて、初放牧に備えて四  
月の頭から放牧柵の設置や  
ペンキ塗り等を学生職員総  
出で実施してきましたが、  
その中で特に残念な事があ  
ります。それは、観光客が  
草地に投げ込む空き缶等の  
ゴミが余りにも多いこと  
です。一日かけて取ったゴミ  
は、軽四輪トラック山盛り一  
杯ありました。空き缶以外  
には、スナック菓子の袋な  
どのナイロンゴミや雑誌や  
新聞紙・ペットボトルと多  
種多様です。さらに壊れた  
ソリや手袋など粗大ゴミも  
多数見られます。特に清掃  
を行った後に一升瓶が放り  
込まれガラスが砕け散って  
いたのを見ると余りのマナ  
ーの悪さに憤りを感じざる

終えません。どのような対  
策を取るべきか解りませ  
んがこのような現状について、  
お知らせしたくこの場をお  
借りし書かせていただきま  
した。

暗い話は終わりにして、  
うれしい報告をしたいと思  
います。それは、昨年十一  
月に実施された「ファーム  
フェスタ二〇〇〇 in 岡山」  
(第二回全日本ジャージー共



進会) に第二牧場から四頭  
もの出品がなされたこと  
です。結果は一等が二頭、一  
等が一头という成績でした  
が、全国を舞台とした共進  
会に参加させていただき  
様々な経験を得る場を与え  
ていただいたことに深く感  
謝しているところです。こ  
れは、地元岡山県で開催さ  
れることから、早くから関  
係機関で出品対策をとられ、

その中で様々  
な講習会や研  
修会等に参加  
させていた  
いたことに加  
え、地元蒜山  
地域で活躍中  
の卒業生をは  
じめとして多  
くの方からご  
指導やご支援  
をいただいた  
賜物だと考え  
ております。  
このような機  
会が今後も得  
られる様

日々精進したいと考えてお  
りますので今後ともよろし  
くお願い申し上げます。

まもなくトウモロコシの  
播種が始まります。第二牧  
場では粗飼料の完全自給と  
いう伝統があり、この基本  
方針にそって今年も努力し  
たいと考えております。十  
二年度粗飼料生産や生乳生  
産に情熱を傾けられた平野  
充生前場長の後任として教  
務課から岸戸武士が、家畜  
の衛生管理や学生指導に昼  
夜頑張られた横内淳一郎君  
の後任に第一牧場から守屋  
吉英君が加わり十三年度の  
新たな体制でスタートいた  
します。なお、田中健嗣・  
磯田博・池田良弘の3名は  
引き続き第二牧場担当して  
おります。卒業生や関係機  
関の皆様、人間や建物施設  
が変わっても、ジャージー  
種での草地酪農の方針は変  
わりません。どうか近くに  
おいでの際はお立ち寄りの  
上お声をかけていただきま  
す様お願いします。